

中学校 保健体育科 部会

部会長名 勾金中学校 校長 川浪 修司
実践者名 勾金中学校 教諭 緒方 洸貴

1 研究主題

「創作ダンスにおけるコミュニケーション能力を高める保健体育学習の研究」
～学びへの意欲を高める自己表現活動と交流活動の充実を通して～

2 主題設定の理由

近年、生徒をとりまく生活環境が急激に変化し、瞬時にさまざまな情報をとらえることができたり、生活の利便性が向上しているなどの、恩恵を受けたりしている反面、人と人のコミュニケーション能力の低下、とりわけ中学生の体力の低下が社会問題になっている。

このような背景から、平成20年1月の中央教育審議会答申により、学習指導要領の改訂が行われた。中学校保健体育科の改善の基本方針として、体育分野では「体を動かすことが身体能力を身に付けるとともに、情緒面や知的な発達を促し、集団的活動や身体表現などを通じてコミュニケーション能力を育成することや、筋道を立てて練習や作戦を考え、改善の方法などを互いに話し合う活動などを通じて論理的思考力をはぐくむことにも資することを踏まえ、それぞれの運動が有する特性や魅力に応じて、基礎的な身体能力や知識を身に付け、生涯にわたって運動に親しむことができるように、発達の段階のまとまりを考慮し、指導内容を整理し体系化を図る。」と示されている。

本研究では、教科の特性に応じた身体活動を通してのコミュニケーション能力の育成に加え、仲間との活動を通じて、情報を言葉や動作で伝達する力、また将来的に地域社会での実生活に生きる力を身につけさせたい。

そこでダンス領域における創作ダンスにおいて、学習活動の中でイメージを捉えた自己表現活動や、踊りを通じた仲間との交流活動を多く取り入れることで、ひとりでも多くの生徒が学びへの意欲を高め、コミュニケーション能力が高まっていくのではないかと考え、本主題を設定した。

3 主題の意味

創作ダンスにおけるコミュニケーション能力とは、日常的な動きや心象（意識の中に思い浮かべたもの）などの多様なテーマからイメージを捉え自己表現したり、仲間の動きを真似したりイメージを共有し合いながら踊りで表現し交流していく能力だと考えている。

個人の表現方法からグループでの表現方法と発展させていく活動を通して、話し合いだけではなく身体活動を中心とした交流を多く取り入れることは、コミュニケーションを豊かにすることにつながると思われる。

4 研究の目標

創作ダンスの学習において、思いきり体を動かして自己表現をしたり、仲間の動きや考え方を認め合う交流活動を多く取り入れることは、コミュニケーション能力の習得にどのように影響するのかを究明する。

5 研究仮説

第2学年創作ダンスの学習において以下の手立てをとれば、学びへの意欲を高め、コミュニケーション能力を高めることができると考える。

- (1) 学習の約束事を一貫して徹底させ、意欲を高める。(①恥ずかしがらずに堂々と動く②思いきり体を動かす③仲間の表現や個性を認めて楽しむ)
- (2) 意欲を引き出す言葉がけをし、意欲を高める。(①否定的な言葉を使わずに、肯定的な言葉に言い換える。②体の感覚に響く言葉やイメージがパッと浮かぶ言葉で表現方法を伝える)
- (3) 毎時間グループでの創作活動を必ず取り入れ、仲間の動きや考えを認め合う活動を取り入れる。

6 研究の計画

(1) 単元 ダンス 「創作ダンス」

(2) 単元の目標

- ・ダンスに積極的に取り組むとともに、よさを認め合おうとすること、分担した役割を果たそうとし、仲間と協力して学習ができる。
(関心・意欲・態度)
- ・自分の興味や関心に合ったテーマや踊りを設定し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫することができる。
(思考・判断)
- ・多様なテーマから表したいイメージをとらえ、動きに変化を付けて即興的に表現したり、変化のあるひとまとまりの表現にしたりして踊ることができる。
(技能)
- ・踊りの特性、表現の仕方、ダンスをすることで関連して高まる体力、などを理解できるようにする。
(知識・理解)

(3) 単元指導計画

時数	学習活動 学習内容	評価基準				評価方法
		関心・意欲・態度	思考・判断	技能	知識・理解	
1	オリエンテーション「リズムに乗って踊る」	一連の学習のねらいや見通しがわかり、積極的に取り組もうとしている。			学習の約束事や、ダンスの特性について理解している。	学習プリント
2	ものを手がかりに「ひと流れの動き」の体験	分担した役割を果たし、仲間と協力しながら意欲的に練習に取り組んでいる。			新聞紙を通して表現活動を通して、ひと流れの表現について理解している。	学習プリント 様相観察
3	対極の動きの連続を手がかりに「走るー止まる」			テーマのイメージを捉え、ひとまとまりの作品をつくり表現することができる。		学習プリント 様相観察
4	群（集団）の動きを手がかりに「集まるーとび散る」		課題に応じた練習方法を選んでいる。		ダンスを通して、関連して高まる体力があることを理解している。	学習プリント
5	身近な生活や日常動作を手がかりに「スポーツの特徴を捉え即興的に表現する」	仲間の動きの良さを認め、協力しながら意欲的に取り組んでいる。		テーマのイメージをとらえ、即興的に表現している。		様相観察
6	身近な生活や日常動作を手がかりに「スポーツの印象的なシーンを強調した表現方法を考える」		自分の興味関心にあったテーマや踊りを設定している。			学習プリント
7	見せ合う楽しみ「スポーツの印象的なシーンを強調して表現する」 発表会		課題に応じた運動の取り組み方を工夫している。	変化のあるひとまとまりの表現にして踊ることができる。		学習プリント 様相観察

7 指導の実際

(1) 本時 平成28年11月17日(木曜日) 5校時 実施学年 第2学年2組 於: 体育館

(2) 本時の主眼

スポーツの印象的なシーンや特徴的な動きについて、グループで変化のある強調した表現方法を考えることができる。

(3) 本時の主眼を達成するための手立て

具体的な動作でデフォルメの仕方(スローモーション、コマ送り等)を伝えることで、変化のある強調した表現方法のアイデアを引き出させるようにする。

(4) 準備 CDプレイヤー、CD、ホワイトボード、DANCE CARD

(5) 展開

学習活動・内容	○指導上の留意点 ◇評価基準	形態	配時
1. ウォーミングアップ	○8844221111のリズムでウォーミングアップを行わせる。	一斉	10分
2. 前時までの振り返り	○もの(新聞紙)を使ったひとまとまりの表現、走るー止まる、集まるーとび散る、スポーツの動きなど前時まで多様なテーマで学習してきたことを振り返らせる。		
スポーツの印象的なシーンを強調した表現方法を考えよう			
3. 本時の課題を確認する	○スポーツの印象的なシーン(感動の瞬間など)のイメージを共有させる。そのシーンを強調するにはどんな表現方法があるのかをグループで考えながらダンスにしていこうことが本時の課題であることを理解させる	一斉	5分
4. 強調するための表現方法(デフォルメ)を理解する	○デフォルメ(変形して強調する)の意味を理解させる。 ○教師示範による具体的な動作の見本(繰り返し・スローモーション・コマ送り等)を提示し、印象的なシーンを強調できるような動きのアイデアを引き出させる。	一斉	5分
5. 個人でデフォルメの動きを表現する	○リーダーの選んだスポーツの動きを真似させ、デフォルメ(繰り返し・スローモーション)の動きを体験させる。リーダーはメンバーに種目を伝えて、10秒ぐらいで交替させながら活動させる。その際、①絶対に止まらないこと②必ず移動しながら動くことを条件に活動させる。	小集団	5分
6. グループでデフォルメの工夫を考える	○5~6人の小グループで1つのスポーツに絞り、デフォルメの工夫をさせ、30秒程度にまとめさせる。 ○イメージを共有させやすくするために、座らずに、立たせた状態で動きながら考え合わせる。 ○つまづきのあるグループには、どんなシーンを一番伝えたいのか聞き、デフォルメの方法を提案し考えさせる。 ◇興味・関心に合ったテーマや踊りを設定している。 (思考・判断)	小集団	15分
7. できたところまで通す	○本時でできたところまでを通させる。	小集団	5分
8. 振り返りをする	○ワークシートに、どのようなシーンを強調したのか、強調するためにどんな表現方法を考えたのか記入させる。 ○発表をさせ、イメージを全体に共有させる。 ○様々な表現方法が出たこと賞賛し、次時の発表会に向け意欲を持たせる。	一斉	5分

8 研究のまとめ

本研究において、創作ダンスの学習の中で思いきり体を動かして自己表現をしたり、仲間の動きや考え方を認め合う交流活動を多く取り入れたことは、コミュニケーション能力の向上に有効だったと考える。

個人が創造した考えや動きの情報を言葉や動作で伝達する生徒が増えたこと、又、仲間同士の考えを認め合い積極的に意見を交流し合う姿が見られたこと、以上のことが授業時の様相観察と毎時間のワークシートの記述から判断できる。

9 成果と今後の課題

成果

- ・学習の約束事（①恥ずかしがらずに堂々と動く②思いきり体を動かす③仲間の表現や個性を認めて楽しむ）を一貫して徹底させたことで、恥ずかしいという抵抗感が減り、ダイナミックな自己表現ができるようになった。また、仲間の表現や考えを肯定的に認め合う雰囲気がつくられていった。
- ・意欲を引き出す言葉がけ（①否定的な言葉を使わずに、肯定的な言葉に言い換える。②体の感覚に響く言葉やイメージがパッと浮かぶ言葉で表現方法を伝える）を意識的に行ったことで、個人個人の表現方法のアイデアやイメージをより多く引き出すことができ、楽しみながら意欲的に意見交流する姿がみられた。
- ・毎時間グループでの創作活動を取り入れたことで、仲間の表現に対して賞賛する姿が多くみられ、温かい雰囲気の中でダンスに親しむことができていた。

課題

- ・毎時間の作品の評価を、教師だけで評価し総括していたので、今後は、生徒側からの感想や相互評価等も取り入れ、全体へ還元し、より活発な意見交流が行えるよう評価方法の仕方を工夫することが必要である。このことが、よりコミュニケーション能力を高めることにつながると考えられる。

◎ 参考文献

明日からトライ！ダンスの授業（大修館書店）